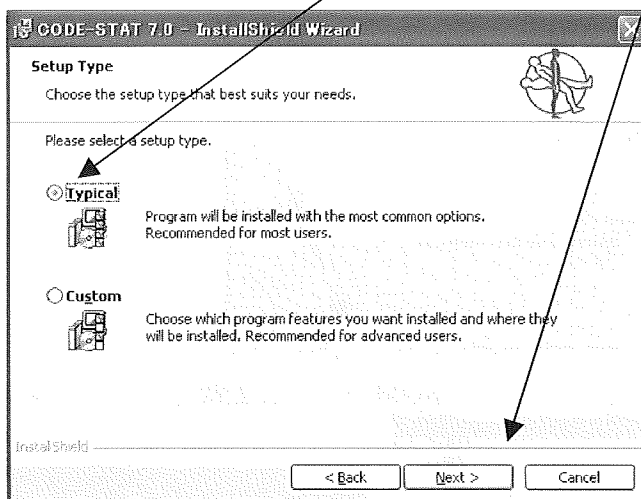
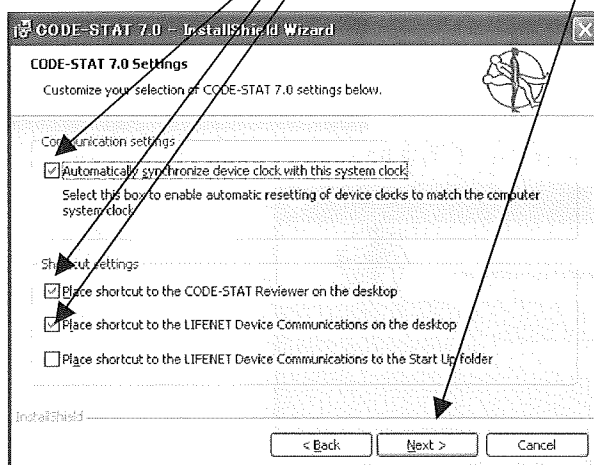


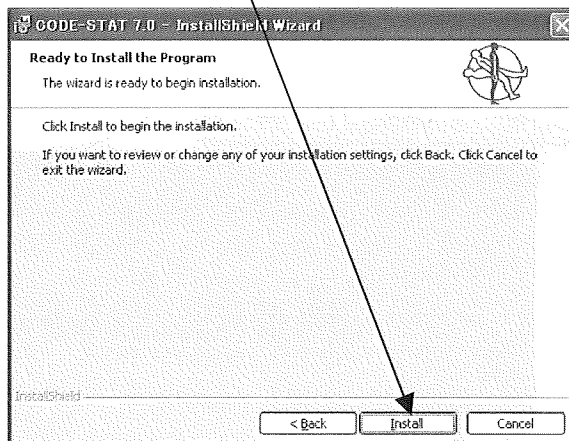
⑦以下のように表示されますので、『Typical』をチェックし、『Next』をクリックします。



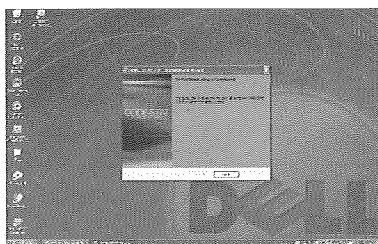
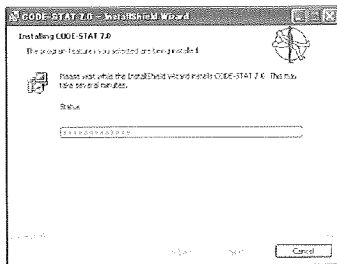
⑧以下のように表示されますので、3カ所をチェックし、『Next』をクリックします。



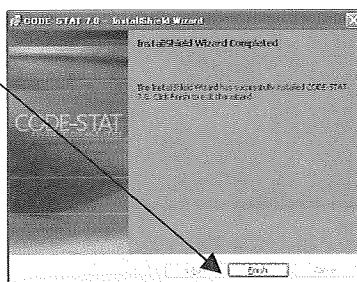
⑨以下のように表示されますので、『install』をクリックします。



⑪以下のように表示され、インストールが完了しました。



問題がなければ、『Finish』をクリックして終了します。

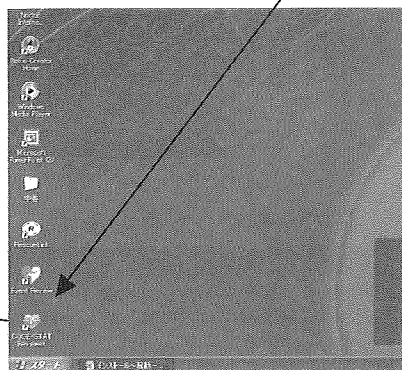


⑫インストール作業が終了しますと、デスクトップ上にショートカットができています。

アイコンは次のように出来ます。



LifeNetCodeStat.exe



⑬ソフトウェアを立ち上げるときにはショートカットアイコンをダブルクリックします。

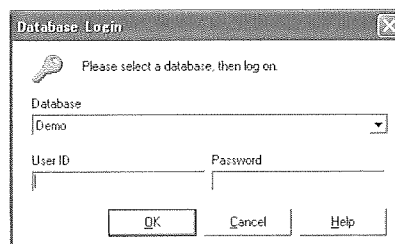


LifeNetCodeStat.exe

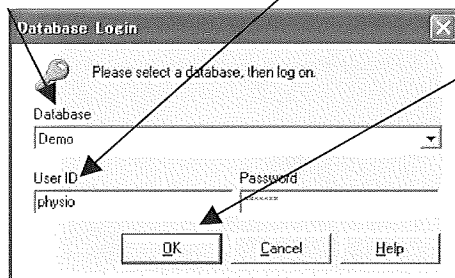
⑭以下のように表示され、Database Login 画面が表示されます。



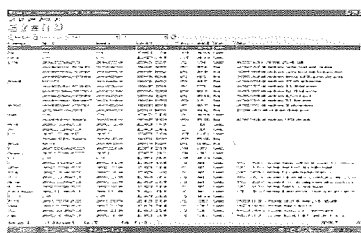
デフォルトの状態では、Demo というデータベースにデータを保存するため、Demo のデータベースへログインします。



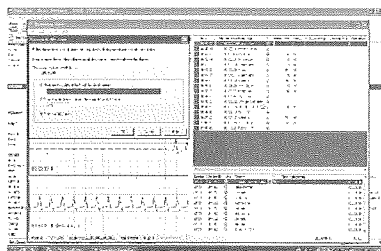
User ID : Physio Password : control を入力して、『OK』をクリックします。



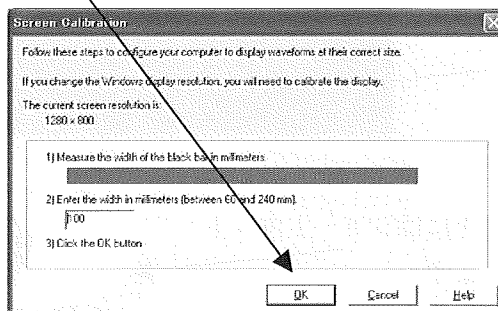
⑮以下のようにサンプルデータが有る、Demo データベースが表示される



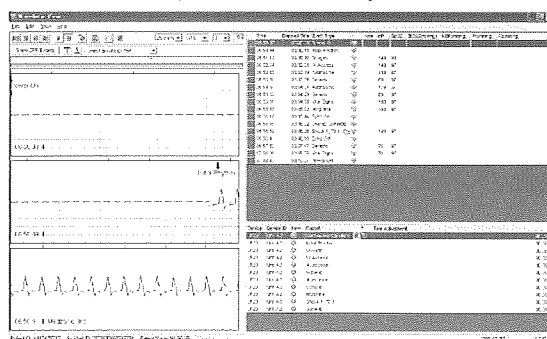
⑯インストール後の最初にデータベースを開いたとき、PC 画面に対するキャリブレーションが始まります。



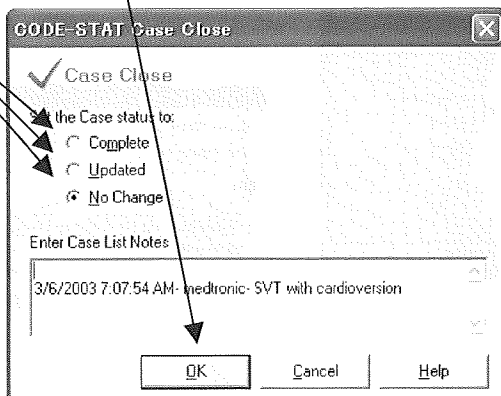
PC の環境に合わせて、『OK』をクリックします。



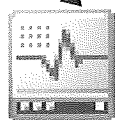
⑰以下の画面のように表示が調整され、表示されます。



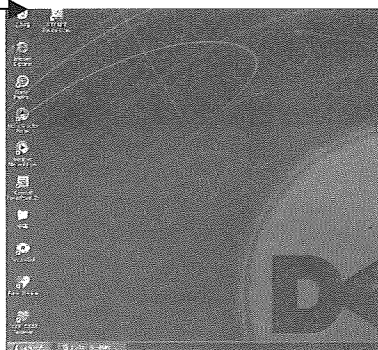
⑱解析ソフトウェアの終了の時は、メニューバー右端上の×を押して終了させます。そのとき以下の画面が表示され、変更するかどうか確認されるますので、必要に応じて選択してください。選択しましたら、『OK』をクリックして下さい。



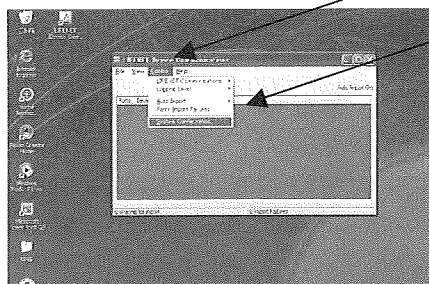
⑲【Life Net】の設定をするため、ショートカットをダブルクリックします。



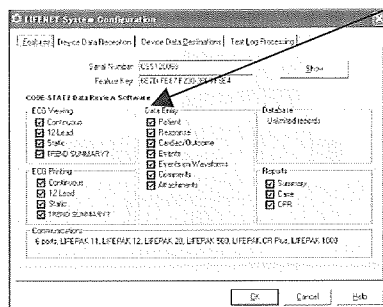
Devstat.exe



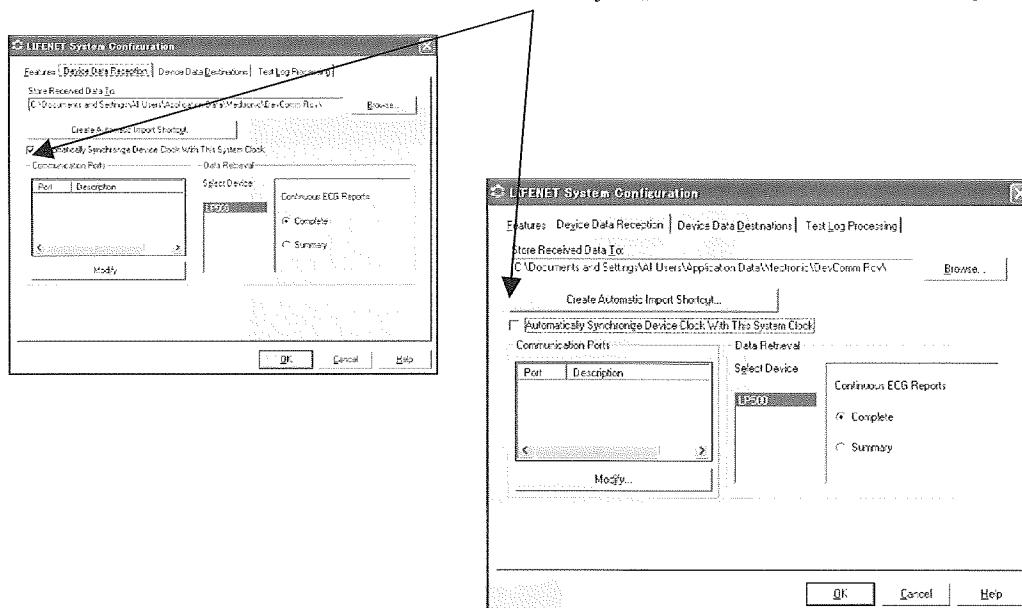
⑳以下の画面が表示されるため、メニューバーの『Control』→『System Configuration』をクリックします。



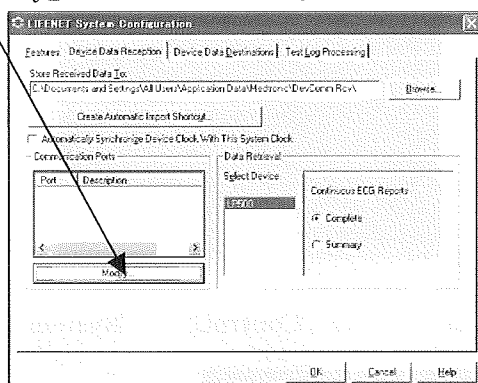
㉑以下の通りに表示されますので、『Device Date Reception』タブを選択します。



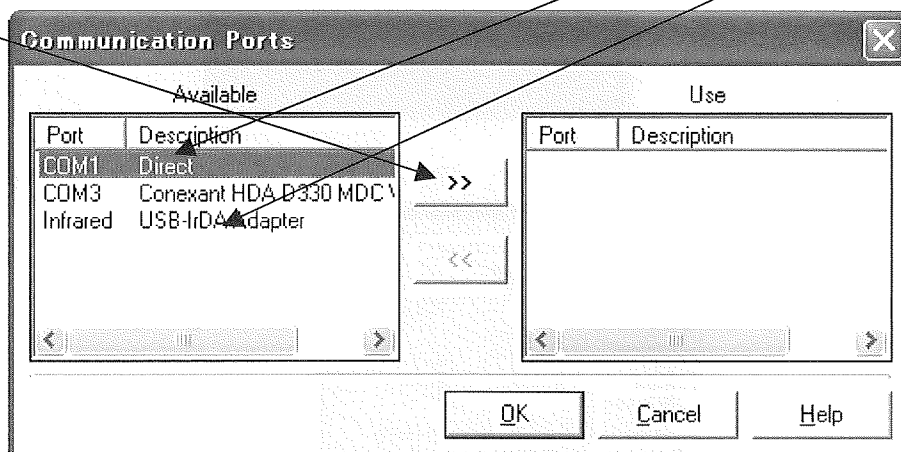
22 以下のように表示されますので、『Automatically～』のチェックをはずします。



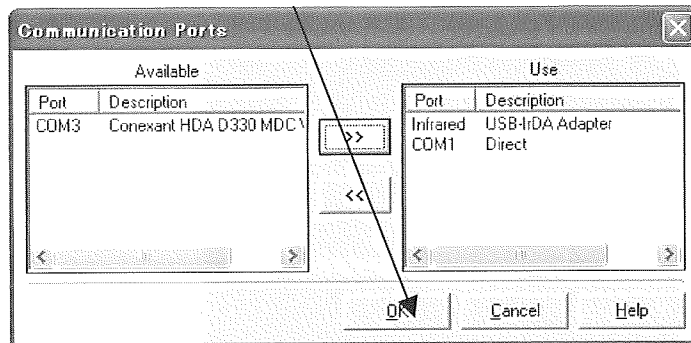
23 次に『Modify』をクリックします。



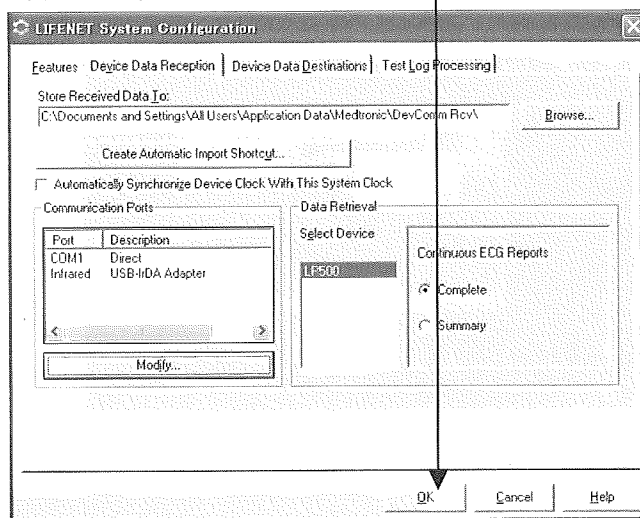
24 以下のように表示されますので、解析用 PC にあわせて、RS-232C と赤外線ポートを→を押して、Use に移動して下さい。



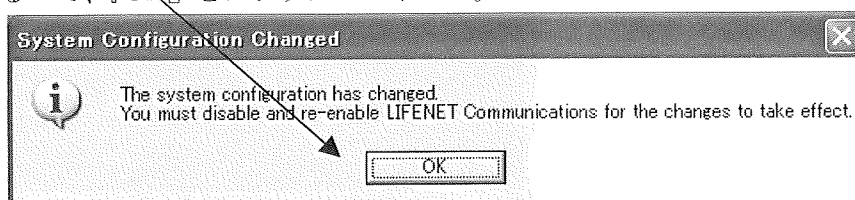
25 以下のようになりましたら『OK』をクリックして下さい。



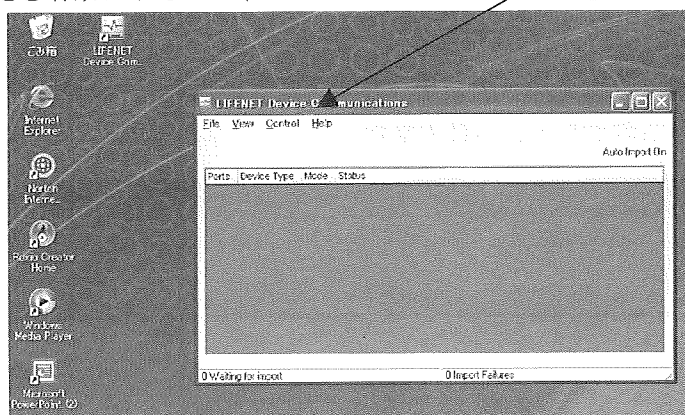
26 以下の画面まで戻するため、戻ったところで、『OK』をクリックします。



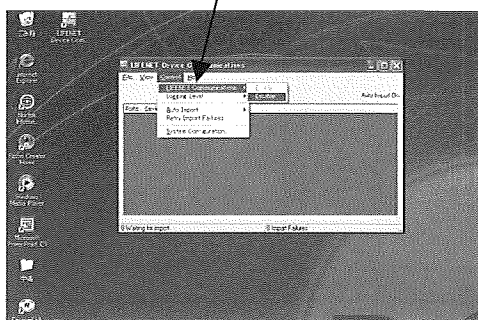
注意がでるので、『OK』をクリックして下さい。



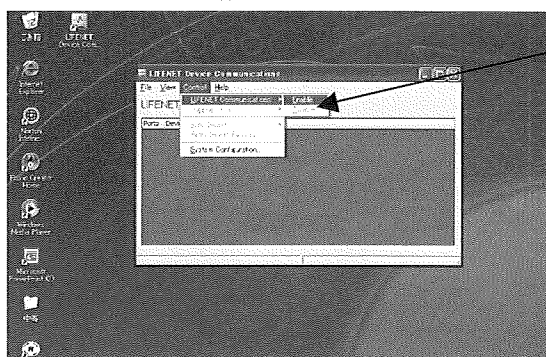
27 変更した設定を有効にするため、メニューバーの『Control』をクリックします。



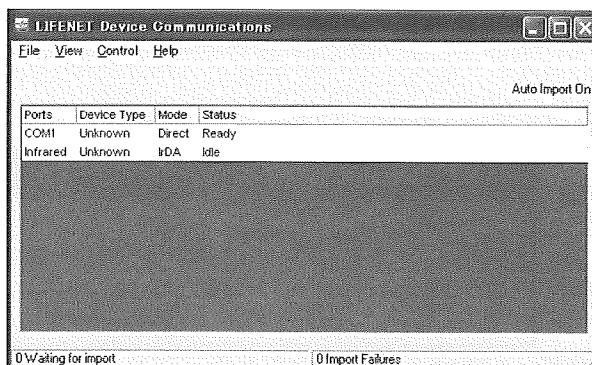
- 28 以下のように表示されますので、メニューバーの『Control』 → 『LifeNetCommunications』 → 『Disable』とクリックします。



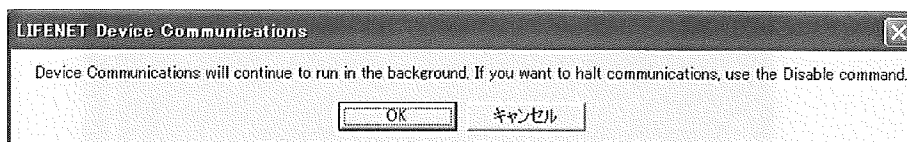
- 29 再度、メニューバーの『Control』 → 『LifeNetCommunications』 → 『Enable』とクリックします。



- 30 以下のように表示され、各ポートが有効になっていることが表示されます。確認して問題がなければ、終了します。



- 31 各ポートを占有している内容が表示されますので、確認して『OK』をクリックして下さい。ポートが占有されるため、他社の解析ソフトとの競合については注意が必要



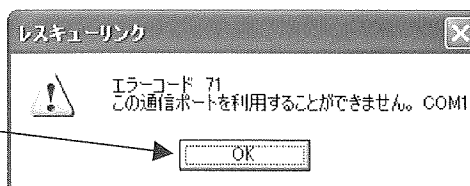
8. AED 機器から内部データの取り出し方法

【AED 機器から内部データを取り込む方法】

1) RS232C ポートがある場合、ポートの占有の解除

RS232C ポートがある場合、メドトロニックの【Code-Stat】をインストールすると、自動的にRS232CポートをCode-Statのプログラムが占有してしまいます。このため、日本光電の【Rescue Link】を動かそうとすると以下のようなエラーコメントが出てしまいます。メドトロニックの【Code-Stat】をインストールしてあるPCで日本光電の【Rescue Link】を動かすときには以下の手順でポートの占有を解除してください。

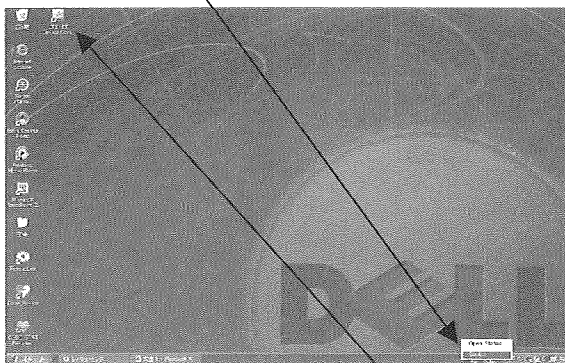
コメントは以下のように表示されます。
エラーを解除するには『OK』をクリックして下さい。



そこで、RS232Cの占有を解除しなくてはなりません。使用出来るようにするには以下の手順で行って下さい。

日本光電【Rescue Link】を一度終了させます。

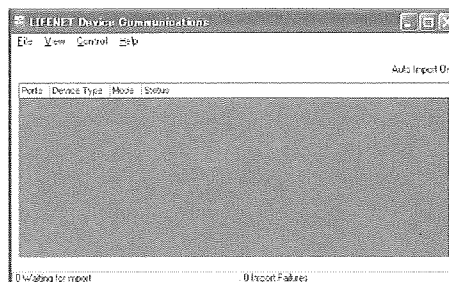
LIFENETのアイコンを右クリックして『Disable』をクリックします。



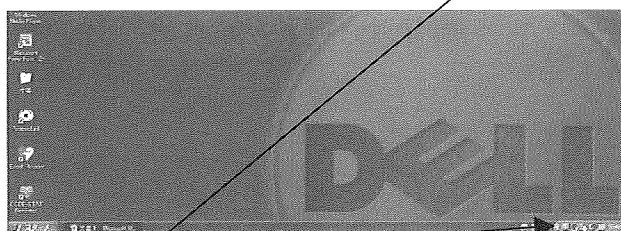
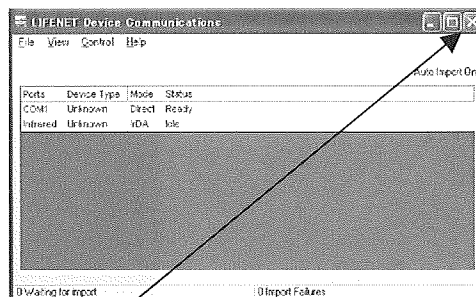
これで【LIFENET Device Communications】のRS232Cポートの占有が解除されます。その後、日本光電【Rescue Link】を再度起動させます。


また、逆に日本メドトロニックの【CODE-STAT】を使用する場合は、【LIFENET Device Communications】のショートカットをダブルクリックしてソフトを起動させます。

以下のように表示されます。



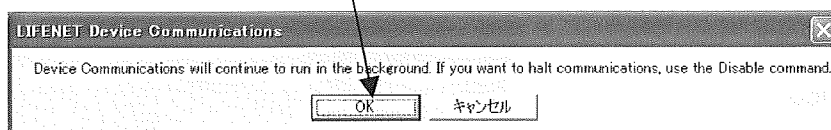
しばらくすると以下のように表示され、以前設定していた各ポートが自動で認識されます。



PC の画面右下に  のアイコンが出ていることで、確認出来ます。

画面右上×で終わらせます。

以下のように表示されますので、『OK』をクリックして終了

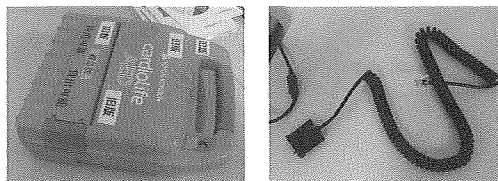


この後に、日本メドトロニックの【CODE-STAT】を起動し、解析が出来ます。

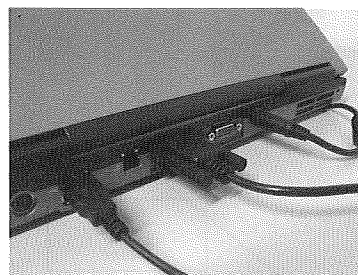
2) 日本光電【Rescue Link】データ取込

【準備する物】

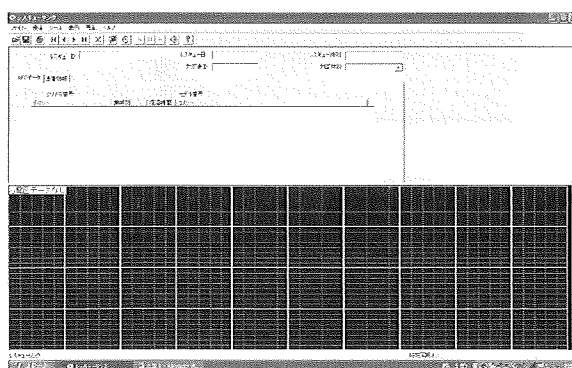
- ・ 解析用 PC
- ・ 接続ケーブル
- ・ データの入った AED



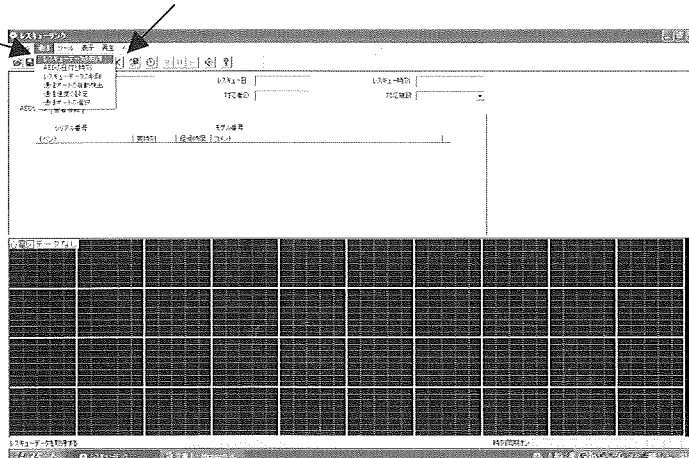
- ① 解析用 PC を起動させ、接続ケーブルを解析用 PC の RS-232C ポートに接続します。



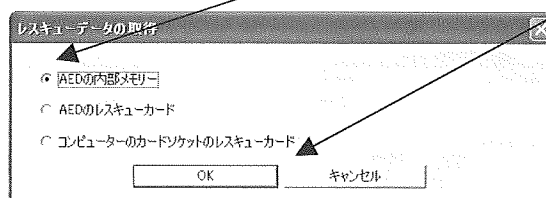
- ② アイコンをダブルクリックして【Rescue Link】を起動させます。



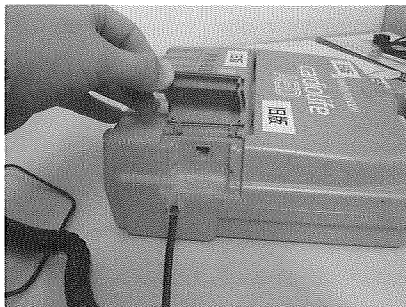
- ③ メニューバーの『通信』 → 『レスキューデータの取得』の順に選択していきます。



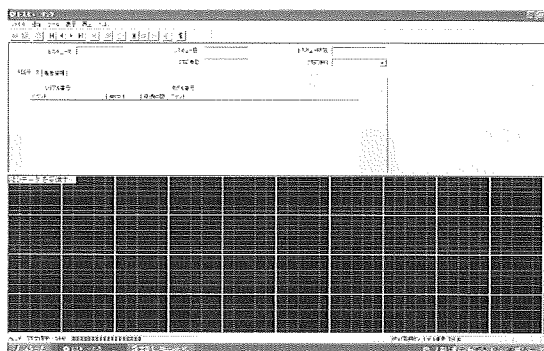
④以下のメニューが表示されます。『AEDの内部メモリー』を選択し、『OK』をクリックして下さい。



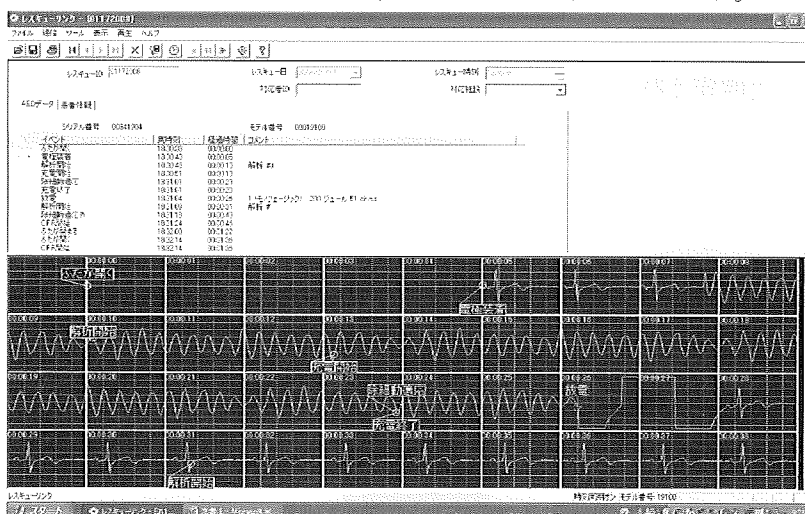
⑤AEDと解析用PCを接続します。



⑥AEDの蓋を開けると、電源が入りコミュニケーションモードに移行します。

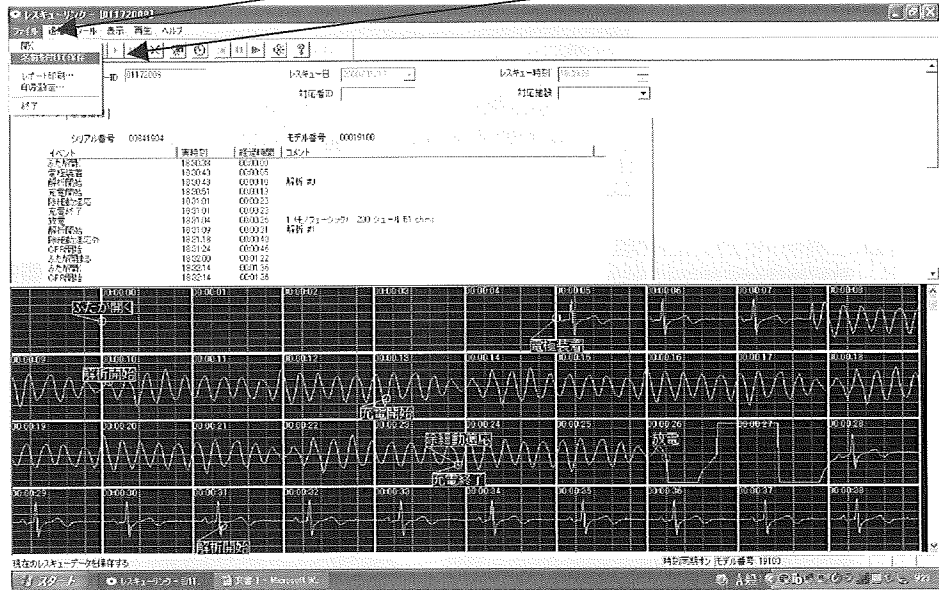


⑦自動でAED本体よりデータが取り込まれ、以下のように表示されます。

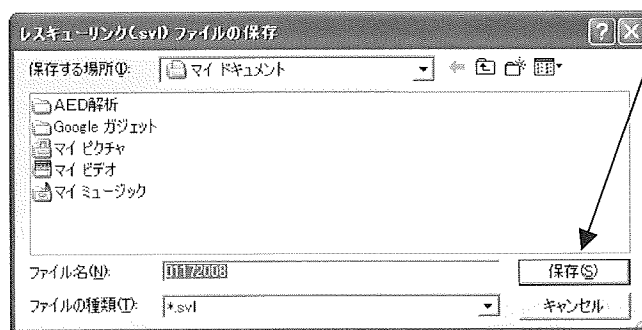


この後は、ソフトウェアの取扱説明書に従い、解析を行って下さい。

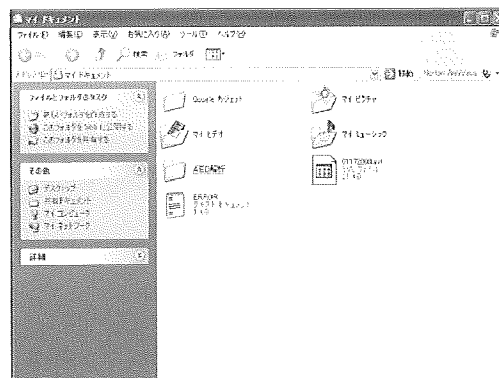
- ⑧データの保存は、メニューバーの『ファイル』 → 『名前を付けて保存』をクリックします。



- ⑨以下の用に表示されますので、必要に応じてファイル名や、保存場所を変更して『保存』をクリックして下さい。



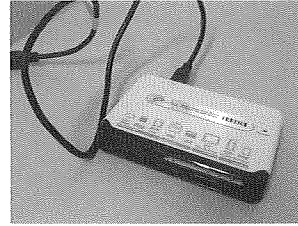
- ⑩解析データが保存されました。



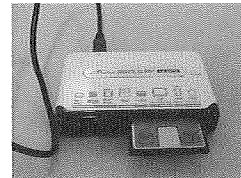
3) フィリップス

【準備する物】

- ・ 解析用 PC
- ・ データカード
- ・ メモリーカードリーダー



- ① メモリーカードリーダーを解析用 PC に接続し、解析用のデータカードをメモリーカードリーダーにセットします。

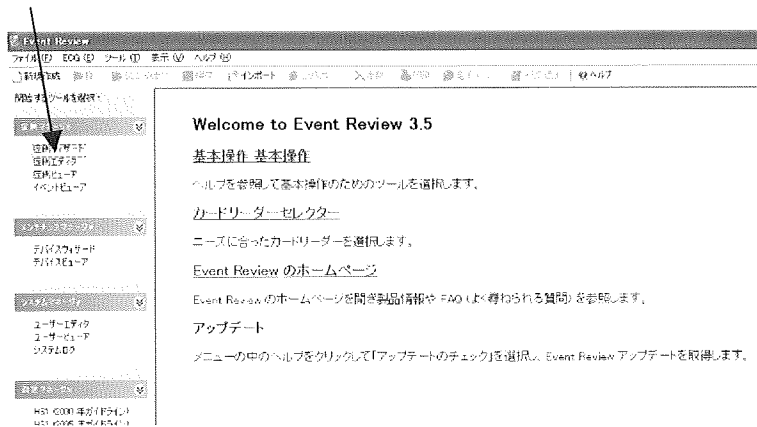


- ① デスクトップ上のショートカットより HeartStartEventReview を起動します。

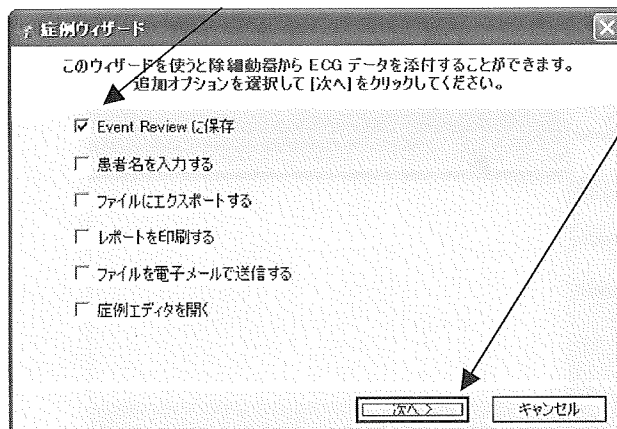


EventReview.exe

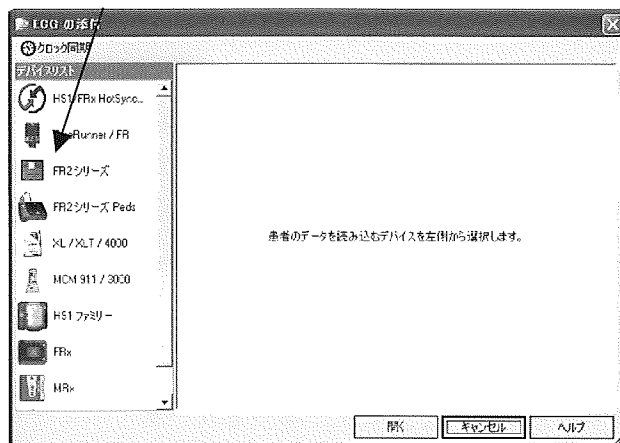
- ② 『症例ウィザード』をクリックします。



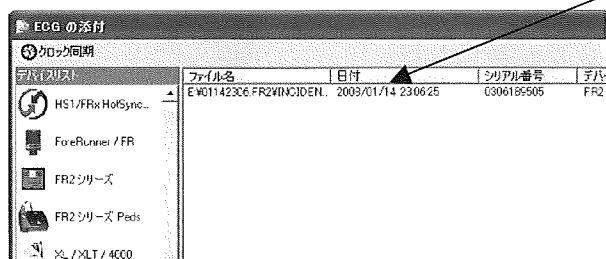
- ③ 以下のように表示されたら、EventReview に保存にチェックを入れ、『次へ』をクリックします。



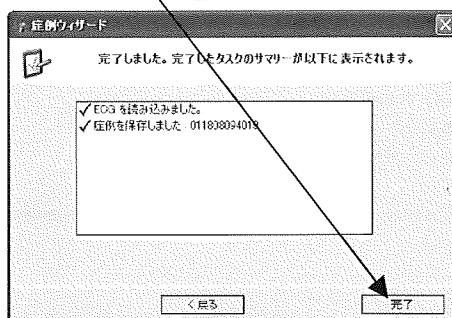
④以下のように表示されたら、FR2 シリーズを選択します。



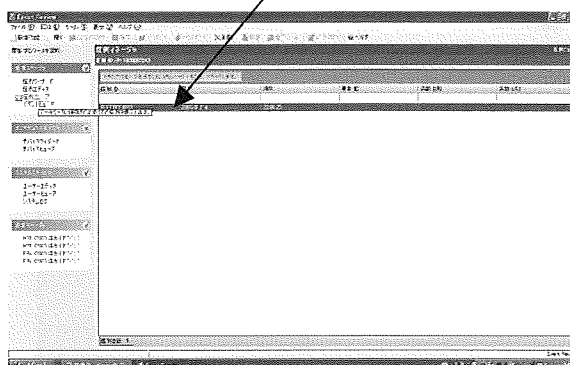
⑤自動でメモリーカード内のデータが表示されるため、必要なデータをダブルクリックします。



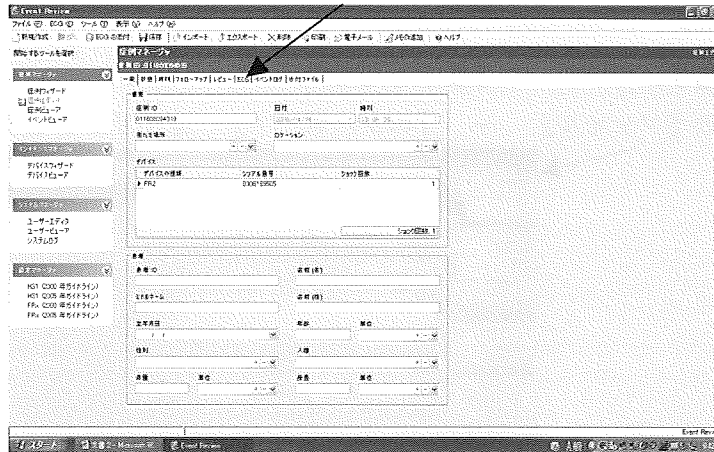
以下のような表示が出ましたら『完了』をクリックして下さい。



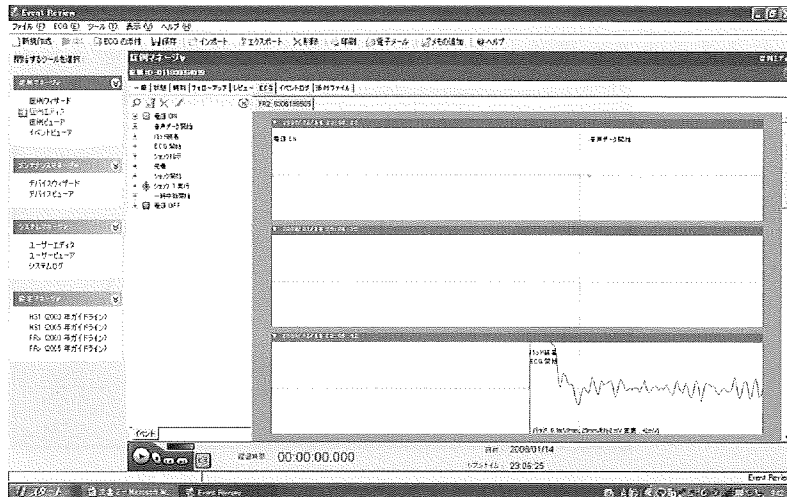
⑥データベースが表示されますので、必要なデータをダブルクリックします。



⑦症例マネージャが表示されますので、ECG をクリックします。

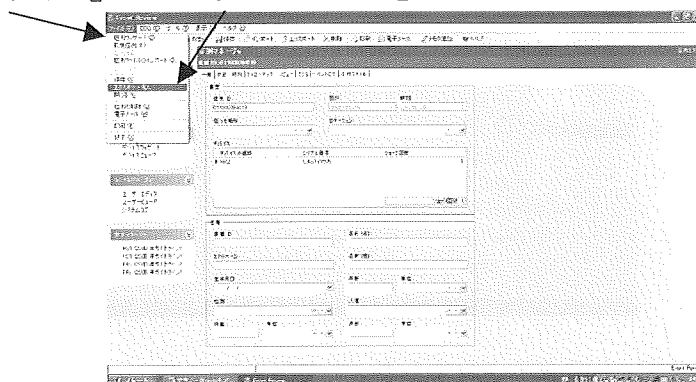


⑧ECG やイベントが表示されました。

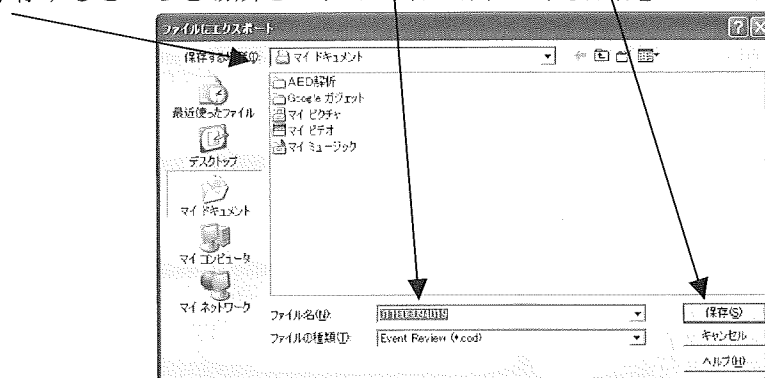


【データのエキスポート】

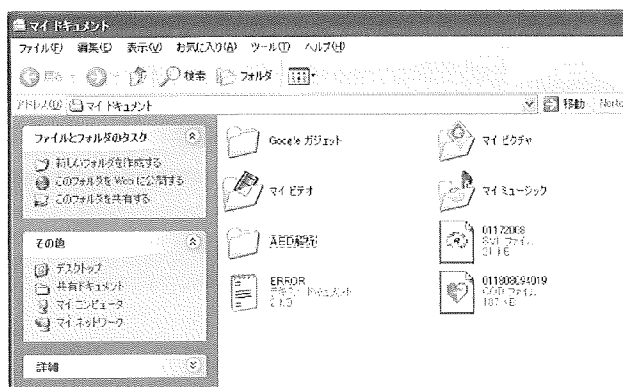
- ⑨ ①～⑧までの通りに行いデータを表示させます。
メニューバーの『ファイル』 → 『エキスポート』 をクリックします。



ファイルを保存するところを場所とファイル名を確認し、『保存』をクリックします。



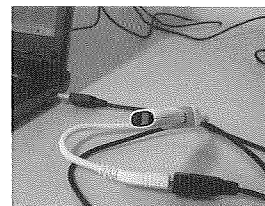
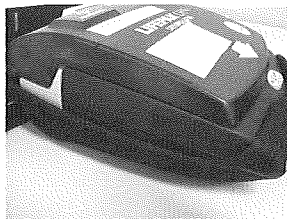
- ⑩ 析データが保存されました。



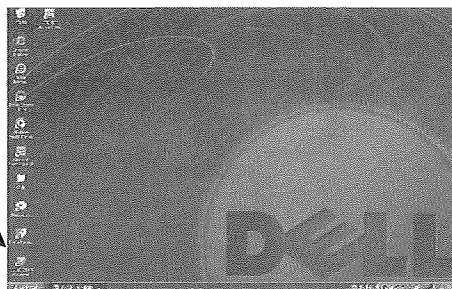
4) メドトロニクス

【準備する物】

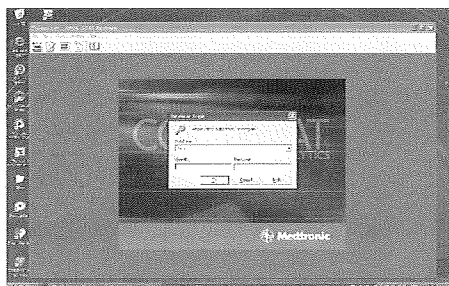
- ・ 解析用 PC
- ・ USB 赤外線ポート
- ・ データの入った AED



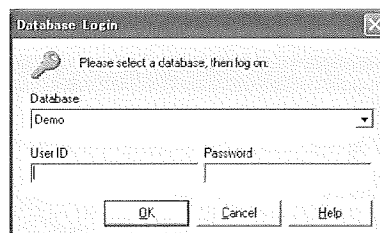
①ショートカットアイコンをダブルクリックします。



②以下のように表示され、Database Login 画面が表示されます。

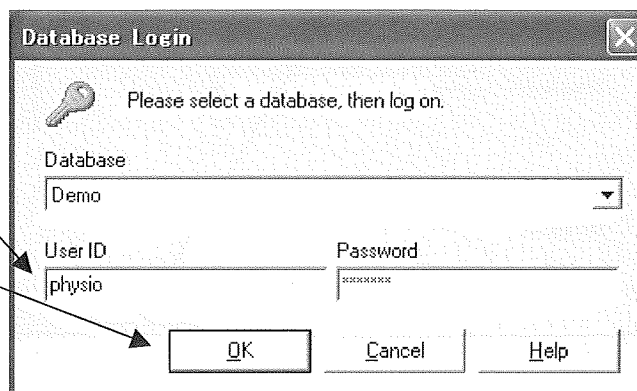


③デフォルトの状態では、Demo というデータベースにデータを保存するため、Demo のデータベースへログインします。

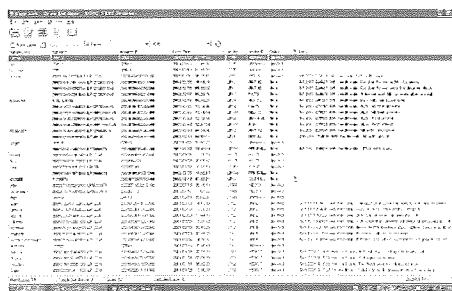


User ID : Physio

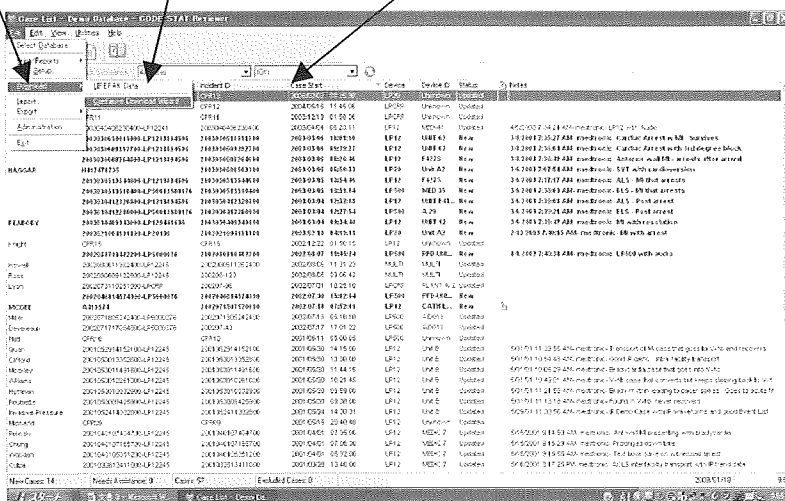
Password : control を入力して、
『OK』をクリックします。



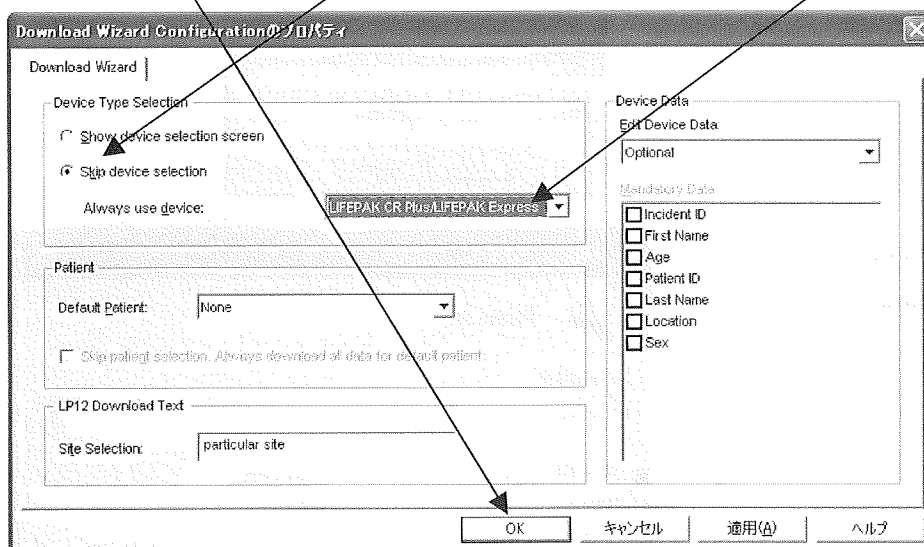
④以下のようにサンプルデータが有る、Demo データベースが表示されます



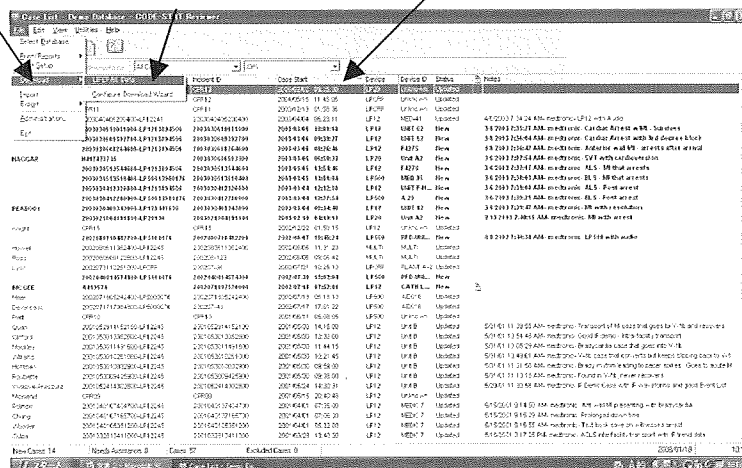
⑤メニューバーの『File』→『Download』→『Configure Download Wizard』をクリックします。



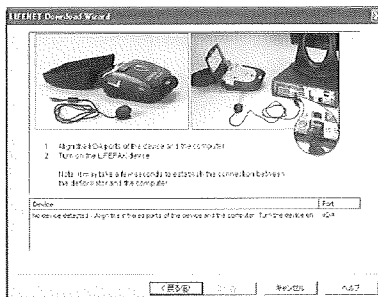
⑥以下のように表示され、『Skip device selection』をチェックして、『LIFEPAK CR Plus』を選択して、『OK』をクリックします。



⑦メニューバーの『File』→『Download』→『LIFEPAK CR Plus』をクリックします



⑧以下のように表示されましたら、案内の通りに AED の電源をいれます。自動的に赤外線通信が始まります。



⑨取得するデータの一覧が以下の通りに表示されます。必要に応じてチェックマークを入れて『次へ』をクリックして下さい。

